

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892200151		
法人名	医療法人社団 順心会		
事業所名	グループホームすずらんの家		
所在地	兵庫県神戸市石守1651-10		
自己評価作成日	平成29年3月27日	評価結果市町村受理日	平成29年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14		
訪問調査日	平成29年4月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者個人のペースで過ごせるように家庭的で安心・安全な環境の下、楽しみを持って過ごして頂けるように支援しています。利用者その人を生活の主体者としてとらえ、毎日の生活が職員中心の業務的なケアとならないように全職員が心がけています。地域との関わりを今後さらに拡充していくことで、地域のよりどころになるような必要とされるグループホームづくりを今後も目指します。隣接する敷地に同法人の医療機関があり、地域の医療機関も含め受診をバックアップしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①その人らしい暮らしの支援・入居者が「その人らしく」家族的な環境の下で安心と楽しみのある暮らしが「地域の一員として」送れるよう、全職員が一丸となって取り組んでいる。②暮らしを楽しむ・「食事」「入浴」「語らい」「穏やかであること」を楽しむ等、日々の楽しみを多く感じられるような様々なプログラムを仕掛けている(希望を聴き取った手作り食事、希望する場所への外出(喫茶店等)やドライブ、バイク形式での食事会、キッチンのカウンターを寿司店に模しての「握り寿司」お楽しみ会、お茶会、季節湯、敬老会、家族も参加する夏祭り、リハビリ体操等)。③安心感のある医療連携体制・同法人の施設が隣接しており、日常生活における健康・医療面での対応や急変時のサポートが整備されている。④地域貢献・地域包括支援センターと連携しての「いきいきサロン」やトライやるウィークの受入れ、認知症介護実践者研修の受入れ等、事業所のパワーを還元している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で理念を意識し共有できるように目に留まりやすい個所に理念を掲げ、理念についての勉強会を開催している。	入居者各人が、「その人らしく」「地域の一員として」「家庭的な環境の下で安心と楽しみ」をもった日々となるよう、全職員が一丸となり取り組んでいる。事業所理念を職員用トイレ扉の内側にも貼付し、日々のケアの指針となるよう工夫も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物等ご近所の店に利用者と一緒に行くようになっている。地域の行事(祭り)等も可能な限り参加している。トライやるなどの受け入れを通じ交流をおこなっている。	近隣商店での買い物、町内会・民生委員・ボランティアの協力、地域行事への参加(秋祭り、銭払い等)、お気に入りの喫茶外出等、地域の中でゆったりとした日常が継続できるように支援している。	今後も、地域の方々の協力の下、地域における社会資源の一つとしての積極的な活動の継続に大いに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方や、ご近所の方々の見学等を受け入れ、その際に施設の方針やケアの重要点を説明している。地域包括や他事業所と連携し、認知症サポーター養成活動などに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方にホームの現状、事故、今後の課題などを報告し、話し合いを持ち多くの意見を頂くことでサービスの向上に努めている。	会議には家族(ほぼ全員)及び地域の方々(民生児童委員・町内会の方が数名)出席し、多様なテーマ(地域交流、認知症ケア、家族との協同、安全面・衛生面・健康面等)について相談・検討し、その内容を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当職員に参加してもらいホームでの現状、ケアへの取り組みを報告している。	市の職員とは、運営推進会議(2名出席)やその他の機会を通じて事業所の情報共有・課題の相談等を行っている。地域包括支援センターとは、「いきいきサロン」や「サービス担当者会議の充実」についての意見交換等も行い連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会を行っており身体拘束が及ぼすケアの弊害を各スタッフが理解している。玄関の施錠については不審者侵入防止の為に自動ドアで施錠してある。	職員は研修・勉強会並びに事例検討により「身体的拘束等の弊害」を十分共有し、入居者が望む「その人らしい暮らしとなるよう取り組んでおり(「身体拘束排除宣言」を事業所に掲示)、「言葉かけ」の方法とタイミングには特に留意している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者一人一人の生活を大切にしその人らしさを追求個人のペースに合わせたケアを心がけることで、身体的、心理的虐待を防止している	研修・事例検討並びに日々の振り返りにより、「不適切なケア」のレベルからの払拭に取り組んでいる。また、職員間コミュニケーションを大切にして(ショートミーティング等)、バーニアウト(孤立化)しないように努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居者の中に、成年後見人制度を利用されている方が以前いたことで職員の中でも周知は出来てきている。現在は保佐人を利用されている方が居る。又、制度について職員が学べる機会を今後も作ってきたい。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方が1名おられる(保佐)。職員は、研修及び今迄の実績により、制度活用の有用性を理解しており、状況に応じて案内・助言・サポートできるように取組んでいる。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書・重要事項説明書に対して管理者と計画作成担当で説明を行っている。介護保険改定時には、書面にて同意を頂き十分な説明をします。	事業所見学、アセスメント、質疑応答等により、疑問点・不安感の無い状態にして契約を締結している。契約時には関連書類を丁寧に説明し理解を頂いている(重度化・終末期への対応方針、退居時支援含む)。	サービス内容をよりご理解して頂きやすいよう、契約時や入所後に家族等から受ける質問等の項目を集め、「Q&A集冊子」等も作成してみても如何でしょうか。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などは行ってないが2ヶ月に一回の運営推進会議には、利用者のご家族へ参加のお知らせをしている。会議にて、ご意見やご要望を伺う時間を設けている。今後、意見箱などを設置し更なるご意見を頂けるように努める。	運営推進会議、行事参加時、来訪時、アンケート(年2回)、電話等、様々な機会を設けて意見・要望を聴き取っている。頂いた意見等は直ちに検討し、運営に活かしている(必ずフィードバックし、事業所内開示も実践)。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、管理者・計画作成担当が参加し全体ミーティングや個人面談を不定期に行い意見を傾聴している。	業務遂行は各係りを中心に施策立案し、全職員参画による実行・検証(会議等で)を実施し、ケアの質の向上に努めている。また、個別面談(レビュー)も定期に実施し、職員からの提案も吸い上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間2回の人事考課に合わせて職員面接を行い各自が目標を持って働けるようにしている。職員個人の様子に合わせて随時面接を行って要望などの把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	二市二町グループホーム協会の勉強会や、外部研修に参加する機会を設け職員1人1人の力量アップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二市二町グループホーム協会に参加し情報交換やネットワーク作りに努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族・担当ケアマネ等から情報を聴き取り、本人の想いを受け止めることで信頼関係を築いている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人・家族と面談し家族の想い、困っている事を聴き取り、家族、本人共に安心して入居できるように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時にすぐに入居出来ないため本人・家族の状況に応じて他のサービスの紹介も行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人と同じ目線で対応し、本人が安全に戸惑うことなく、暮らしを共にする家族として関わっていくように努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回、本人の様子を報告書にて報告している。病院への受診等家族に協力してもらうことで本人と家族の関係性を大事にしている。家族が多忙な時は職員が受診に付き添っている。引き続き家族の協力が得られるように努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が訪ねてこられたときはゆっくりお話しできる環境を作っている。本人との会話から情報を収集している。今後、本人の馴染みの場所や馴染みの人との関係性が途切れないように外出や訪問できるようにしたい。	家族との外出(買い物・食事・通院等)・外泊(自宅にて)、友人・知人の訪問、馴染みの店での買い物、季節の便りの投函等、今迄の生活感ができるだけ長く継続できるように支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作り・掃除などを出来る範囲で助け合いながら出来るように支援している。職員が食事などを一緒にすることで利用者同士の会話につながるように支援している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に立ち寄り、退居後の近況などを聞かせて頂いたり、職員が退居先に出向き、退居後の状況把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日、その時よっての気持ちや思いを汲み取り、職員の一方的な支援にならないように努めている。	入居者個々人との係わり(会話、言動、仕草・表情等より)の中から、ご本人が望む日常となるよう、その思い・意向を汲み取っていくように努めている。入手した情報は、毎朝のミーティング・申送り等で全職員が共有している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や、家族からの会話を通じてこれまでの暮らしや生活歴を把握しているが今後も家族からの情報を増やせるようにすることと、職員間で情報を共有することが課題である。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はケア記録に記録し、現状の把握をしている。気づきメモを用いて気づいたことを申し送りノートに記入し情報共有を図り、本人の出来ること、出来ないことの把握をし出来ることに繋げている		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者状態報告書を月に一回作成し、それに基づきケアプランを作成している。毎月の申し送りや月一回のミーティングにより話し合いをしている。	入居者の思い・意向、家族の要望に、職員・医療専門職の意見を踏まえ、ご本人の「今」に適合した介護計画を作成している。入居者の現況は常に意識(ケアカンファレンスの実施)し、家族とも連携しながらモニタリング内容をプラン見直しに反映している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に表情・要望・行動などを個別に記録している。気づきメモを使って職員間で情報共有し実践に繋げている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティア等の支援があれば積極的に受け入れるようにしている。今後も多くの活動につながる関わりを持っていきたい。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は近隣のお店を利用している。地域との交流が少ないので今後もっと、地域の清掃活動等に参加する機会を多く作りたい。近隣の小学校・幼稚園等とも今後も交流を図れるようにしていきたい。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の希望があれば協力医院をかかりつけ医として受診してもらっている。本人・家族の希望でかかりつけ医を決めてもらっている。	主治医(かかりつけ医)の選択は入居者・家族に委ねている。協力医(内科・歯科)への通院受診は家族と協同している。早め早めの支援(予防)を心がけ、健康管理を行っている。個別に往診(内科)をお願いしている方もおられる。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し健康管理を行っている。気づいたことや個々の状態などを相談している。現在個人で契約を結んでいる方もいる。緊急時には24時間対応出来る体制をとっている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には家族と連絡を密に取り、医療関係者とも情報交換をはかり早期退院に努めている。	この1年では入院者はおられなかった。入院された場合には、職員が面会に赴き、家族との情報共有をしている。医療機関の担当者からは、退院後の生活に不具合が生じないよう、情報を入手してホームでの生活に活かしている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームで出来る範囲の確認を行っている。現在まで看取りの実績はない。	重度化・終末期の状況になった場合には、「出来る事」「出来ないこと事」を明確にし、ご本人にとって望ましいケア・「生」となるよう関係者(本人・家族、医療専門職、事業所等)で相談・検討しながら取り組んでいる。看取りの体制は整備している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的なマニュアルがある。勉強会等で職員研修をおこなっている。今後も定期的に応急処置や急変時の対応などの研修や訓練を行って実践力を養いたい。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間二回消防署にも協力を得ながら訓練を開催している。	年2回(9月・3月)の通報・消防・避難訓練(日中帯・夜間帯想定)を実施している(消防署立会いあり)。有事には、地域(町内会長、民生委員承諾)・隣接事業所(同法人)の協力体制を築いている。また、常備食・飲料水等も備蓄している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なじみの関係を築くにつれて、親しみのある言葉かけなどが出来ているが、無意識になれあいから言葉がきつくなっている時があるので今後も注意して行いたい。	入居者個々人の現況及び自尊心・羞恥心に充分配慮しながら、ご本人が今まで培ってこられた事柄(技能・趣味・習慣等)を、日々の暮らしの中で体現したいタイミングで実践できるよう支援している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のしぐさや態度で思いや、希望を察するように努め、選択出来るような言葉がけをするようにしている。思いや希望が、職員の決めつけになっていないかと考えている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務内容にそう傾向になりがちで職員から一方的にすることを決めがちな所がる。本人のペースや希望を大切に本人が何をしたいのか導けるように支援したい。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は好みの服を本人に選んでもらっている。今後は本人様が好みの服などを気軽に買いに行ったり出来るような支援を行って行きたい。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、味付け、味見など利用者の意見を聞きながら一緒に行っているが回数が減少してきている。食事は利用者・職員が同じテーブルで食べ、会話しながら食事が楽しめるようにしている。	全食手作りの「食」を提供している。下拵え(包丁・皮むき)や盛り付け、味付け等得意な部分を職員と会話を楽しみながら一緒に作り、食している(座位、嚥下状態等確認も)。行事食、お楽しみ会、外食・出前等も好評である。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段より食事量・水分量が少ない利用者には記録をとり注意を払っている。体重の増減にも注意を払い食事量の調整などを行っている。体調不良時には食事・水分の摂取量をチェックし対応している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、介助が必要な方はリビングにて見守り・介助している。義歯装着者は夜間、預かり洗浄している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態に合わせて排泄介助をしている。利用者がトイレを訴えた時には他の何よりも優先してトイレに案内している。トイレの訴えが出来ない方も習慣がつくように定時の誘導を行っている	プライバシーに配慮しながら入居者の排泄パターンとそのサインを把握し、トイレでの排泄が行えるよう、ご本人にマッチした支援をおこなっている(2人介助等)。夜間帯もトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容や水分をしっかりと摂ることなどに気を付けている。毎朝の体操や日中の散歩で体を動かす機会を作っている。服薬のある方はその時の状況により個々に対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、職員と1対1でゆっくりと入浴を楽しんでもらっているが、曜日や時間帯を職員の都合で決めている。希望には臨機応変に対応しているが、今後、曜日や回数にとらわれずに利用者の希望、個々に沿った支援が課題である。	週3回以上の入浴を基本に支援している(毎日入浴の希望者にも対応)。個々人にとって、ゆっくりゆったりとした時間となるように職員との会話も楽しみながらの入浴時間となっている。季節湯(柚子湯等)も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めずに個人のペースに合わせて就寝してもらっている。日中は個々に応じて居室やリビングで休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為に個々に袋を作り薬名・用量を記載し内服をチェックしている。薬局から出る薬の説明書をファイルし、副作用・用法・用量等を職員が把握している。臨時約などあれば申し送りのノートに記載し重要事項などを情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・後片付け・掃除・洗濯などの個々のペースに合わせて役割を持ってもらっている。生活歴を把握しているがまだまだ稀薄であり、生活歴の把握が今後の課題でもある。段々と出来なくなってきた事も増えてきている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物に利用者とは出かけたり、天気の良い日は散歩に出かけるなどして外出の機会を設けている。本人の希望に沿った外出支援が今後の課題である。感染症の季節でもある冬場は外出機会も減っている。	日常的な散歩や買い物、玄関前ガーデニングへの水遣り等、外気に触れる機会が多い。季節の外出や頻度の高い外食ドライブ、希望の喫茶店でのティータイム等、適度な刺激となるプログラムも演出している。	入居者のADLの低下や個々人の想いも違い、個別対応にも工夫と労力が求められることと察します。今後もご家族等の協力も含め、「利用者の思いに沿った支援」の継続に期待をしています。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして一定金額を預かっている。お金の自己管理が出来る方は所持している。希望があれば買い物に出かけている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族などに電話連絡・手紙のやり取りが出来るように支援している。お正月には家族に年賀状を出すなどしている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁紙を作って貼ったり、花を活けたりして季節感を取り入れている。今後も季節感や四季の移り変わりに合わせた家庭的な環境づくりを継続していきたい。	玄関周りの季節の草花や置物、広く適度な採光が入るフロア、ゆっくりとした時間を寛げる畳敷きの小上がりやソファスペース、季節飾りや制作物、行事写真(毎月分)の貼付された壁面、調理の匂い感じれるアイランドキッチン等、家庭的な空気が漂う共用空間となっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置して気の合った利用者同士がお話したり、畳で過ごしたりできるようにしています。テーブル席も利用者が自然と座った席を自席としその日の気分でも変更も可能となっている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人・家族と相談の上、なるべく慣れ親しんだ家具や、布団を使用してもらうことで入居前と変わらずに居心地の良い空間づくりになるようにこころがけている。	使い慣れた馴染みの大切な物(家具、仏壇、絵画、家族写真等)を持ち込み、居心地の良い居室となるように支援している。トイレ・洗面台が設置され衛生的である。また、家族とも相談しながらADLの変化への安全対策にも配慮している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレにはわかりやすく表札をつけている。また、危険であるからとすべてを取り除くと言ったことはせずに見守るなど出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		